

お問い合わせ

男鹿半島・大潟ジオパーク
 男鹿半島・大潟ジオパーク推進協議会事務局
 〒010-0595 秋田県男鹿市船川港船川字泉台66-1
 TEL.0185-24-9104 FAX.0185-24-9156
 男鹿半島・大潟ジオパーク公式サイト
<http://www.oga-ogata-geo.jp/>

八峰白神ジオパーク
 八峰白神ジオパーク推進協議会事務局
 〒018-2612 秋田県山本郡八峰町八森字ノケソリ116
 TEL.0185-78-2427 FAX.0185-78-2388
 八峰白神ジオパーク八峰町ホームページ
<http://www.town.happou.akita.jp/index.php?pid=66>

ゆざわジオパーク
 湯沢市ジオパーク推進協議会事務局
 〒012-8501 秋田県湯沢市佐竹町1-1
 TEL.0183-55-8195 FAX.0183-79-5057
 ゆざわジオパーク公式ウェブサイト
<http://www.yuzawageopark.com/>



アクセス

男鹿半島・大潟ジオパークへのアクセス

- 【航空】**
- 札幌(新千歳)→JAL/ANA 約55分→秋田空港
 - 東京(羽田)→JAL/ANA 約60分→秋田空港
 - 名古屋(中部)→ANA 約75分→秋田空港
 - 大阪(伊丹)→JAL 約85分→秋田空港
 - ※秋田空港一車・レンタカー 約90分→男鹿半島・大潟ジオパーク
 - 東京(羽田)→ANA 約70分→大館能代空港
 - ※大館能代空港一車・レンタカー 約120分→男鹿半島・大潟ジオパーク

- 【高速道路】**
- 仙台宮城IC→129.4km 約80分→北上JCT→132.4km 約110分→昭和男鹿半島IC→22.4km 約30分→男鹿半島・大潟ジオパーク
- 【鉄道】**
- 東京駅→JR秋田新幹線こまち 約3時間50分→秋田駅→JR男鹿線 約60分→男鹿駅
 - 仙台駅→JR秋田新幹線こまち 約2時間10分→秋田駅→JR男鹿線 約60分→男鹿駅

八峰白神ジオパークへのアクセス

- 【航空】**
- 札幌(新千歳)→JAL/ANA 約55分→秋田空港
 - 東京(羽田)→JAL/ANA 約60分→秋田空港
 - 名古屋(中部)→ANA 約75分→秋田空港
 - 大阪(伊丹)→JAL 約85分→秋田空港
 - ※秋田空港一車・レンタカー 約100分→八峰白神ジオパーク
 - 東京(羽田)→ANA 約70分→大館能代空港
 - ※大館能代空港一車・レンタカー 約80分→八峰白神ジオパーク

- 【高速道路】**
- 仙台宮城IC→129.4km 約80分→北上JCT→113.7km 約90分→秋田中央IC→56.5km 約50分→能代南IC→19.6km 約35分→八峰白神ジオパーク
- 【鉄道】**
- 東京駅→JR秋田新幹線こまち 約3時間50分→秋田駅→JR奥羽本線 約1時間→東能代駅→JR五能線 約30分→東八森駅
 - 仙台駅→JR秋田新幹線こまち 約2時間10分→秋田駅→JR奥羽本線 約1時間→東能代駅→JR五能線 約30分→東八森駅

ゆざわジオパークへのアクセス

- 【航空】**
- 札幌(新千歳)→JAL/ANA 約55分→秋田空港
 - 東京(羽田)→JAL/ANA 約60分→秋田空港
 - 名古屋(中部)→ANA 約75分→秋田空港
 - 大阪(伊丹)→JAL 約85分→秋田空港
 - ※秋田空港一車・レンタカー 約90分→ゆざわジオパーク

- 【高速道路】**
- 仙台宮城IC→129.4km 約80分→北上JCT→50.4km 約45分→横手IC→13.5km 約12分→湯沢IC→ゆざわジオパーク
- 【鉄道】**
- 東京駅→JR秋田新幹線こまち 約3時間10分→大曲駅→JR奥羽本線 約40分→湯沢駅
 - 東京駅→JR山形新幹線つばさ 約3時間40分→新庄駅→JR奥羽本線 約60分→湯沢駅
 - 仙台駅→JR秋田新幹線こまち 約1時間40分→大曲駅→JR奥羽本線 約40分→湯沢駅

発行 秋田県 企画振興部 地域活力創造課
 〒010-8570 秋田県秋田市山王四丁目1-1
 TEL.018-860-1237

制作 NPO法人あきた地域資源ネットワーク
 〒011-0945 秋田県秋田市土崎港西三丁目9-15
 チャレンジオフィスあきた303号 TEL.018-816-0610

あきたジオパーク 街道マップ



「あきたジオパーク街道」とは、秋田県に3カ所あるジオパークをネットワークで結び、互いに交流を図りながら、広く情報発信するプロジェクトです。スケールの大きな大地の成り立ちと歴史を秘めた、あきたのジオパーク。マップを手にジオパーク街道をめぐる旅に出かけてみませんか。

白神山地と日本海の恵みを受けて



八峰白神ジオパーク



過去7000万年の地球のドラマがここに

男鹿半島・大潟ジオパーク



大地が創り育てた美の郷

ゆざわジオパーク



男鹿半島・大潟 ジオパーク



男鹿半島には、過去7000万年にわたる大地の歴史をほぼ連続して観察できる地層がそろっています。八郎潟を干拓して誕生した日本最大の干拓地大潟村を含んでいることも大きな特徴で、人と大地が育んだ素晴らしいジオの景観を、四季を通じて満喫できます。

ジオガイドの申込み



寒風山の溶岩地形のひとつ「鬼の隠れ里」



板場の台から望む寒風山山頂(左上)と第一火口

男鹿半島を代表する名水「滝の頭湧水」



ジオサイト1 寒風山

寒風山(354.8m)は、2万年あまり前に数回の噴火を繰り返してきた複成火山です。山頂からは八郎潟干拓地(大潟村)や3つの火口などの火山地形が一望のもと。山麓には「滝の頭(がしら)」などの水量豊富な湧水群もあります。

ジオサイト3 西黒沢海岸

西黒沢海岸の地層は、日本海ができたばかりのころ(およそ1500万年前)の、浅く暖かな海で形づくられました。岩石の表面を目をこらして観察すると、ホタテガイやウニ、オパキュリナというプランクトン(浮遊性有孔虫)など、海の生物の化石を見つけることができます。



ウニの仲間スカシカシバンの化石



「鬼の儀ころがし」。ピンク色の花こう岩を岩脈(ジオサイト6を参照)が貫いています



鹿落崎の断崖

ジオサイト4 入道崎

入道崎には日本列島がユーラシア大陸の一部であったころにできた、男鹿半島で最も古い岩石が分布しています。「鬼の儀ころがし」では、およそ9000万年前の花こう岩を、鹿落崎(しおとしぎ)では、およそ7000万年前の火山噴出物が固まった溶結凝灰岩(ようけつぎょうかいがん)を見ることができます。



二ノ目潟と戸賀湾

ジオサイト5 八望台

八望台の展望台からは、三ノ目潟を除く一ノ目潟、二ノ目潟と戸賀湾が望めます。3つの目潟は地下からのぼってきたマグマと地表近くの地下水が接触し、大爆発(マグマ水蒸気爆発)を起こしてできたぼ地に水がたまったもので、マールといえます。戸賀湾もほぼ同じようにしてできました。



ゴジラ岩



ゴジラのしっぽ岩



カメ岩(潮瀬崎灯台)



ガメラ岩

ジオサイト7 潮瀬崎

潮瀬崎といえば、なんといってもゴジラ岩。3000万年あまり前の火山噴出物でできた岩石が、長い時間をかけて潮風や波の力を受け、今の形になりました。ほかにも面白い名前がついた奇岩や生き物が這(は)ったあとの化石、穴欠(あなけつ)などのジオポイントが豊富で、探しながら岩場を歩くだけでも楽しめます。

ジオサイト6 男鹿水族館付近

男鹿水族館GAO前の海岸では、塔のようにそびえたり、キャタピラのような割れ目のある岩石が、平坦なまわりの岩石を突き破って伸びています。これは地下から上がったマグマが、もともとあった岩石に後から入り込み、地中で冷えて固まったもので、岩脈(がんみゃく)といえます。



グリーンタフの露頭

ジオサイト8 館山崎

グリーンタフとは、火山灰などの火山噴出物が積み重なってできた凝灰岩(ぎょうかいがん)が、熱水(ねっすい)などで変質して緑色となったもので、ここ館山崎がその名称の発祥の地といわれています。落石の危険があるので、見学の際には露頭(岩石や地層が地表に露出した場所)にあまり近づかないようにしましょう。



生鼻崎の露頭

ジオサイト10 生鼻崎

国道101号の生鼻崎トンネルの上に、茶色の砂の層と白っぽい泥の層が互い違いに重なっている大きな崖があります。この縞(しま)模様の層は、深かった海が少しずつ持ち上げられて次第に浅くなっていった、およそ70年から60万年前ころにできた地層と考えられています。崖の上にある中世の城館跡、「脇本城跡」(国指定史跡)も訪ねてみましょう。



大潟富士



八郎潟干拓記念水位塔

ジオサイト12 大潟富士

大潟富士は、平成7年に盛り土をして誕生した人工の山です。高さが富士山の標高の千分の一にあたる3.776m、山頂はちょうど海抜0mになります。隣に並ぶ八郎潟干拓記念水位塔も、球体の中心部分(横棒)が大潟富士と同じ高さで、かつての八郎潟の湖水面を示しています。



干潮時の鵜ノ崎海岸

ジオサイト9 鵜ノ崎海岸

鵜ノ崎海岸は、1000万年ほど前は2000m以上も深い海の底でした。静かに泥が積もっていた海の底は、やがて長い時間をかけて大地の力によって持ち上げられ、波によってけずられて、今のような遠浅の海岸になりました。波打ち際の泥岩(でいがん)からは、当時の海で泳ぎまわっていた魚の骨の化石が見つかることがあります。



中央幹線排水路

ジオサイト11 南部排水機場

大潟村は、もとは湖の底だったところにできた人工の大地で、海抜0mより低いところに人びとが暮らしています。そのため、村内2か所に排水機場を設け、幹線排水路に集められた干拓地内の水を休みなく汲みだしています。このうち南部排水機場は平日であれば内部の見学が可能で、展望デッキから干拓地と排水路、八郎潟の残存湖(八郎湖)を望むことができます。

男鹿半島・大潟ジオパーク 拠点施設

男鹿市ジオパーク学習センター

男鹿半島の大地の成り立ちを、子供から大人まで楽しみながら学べる展示学習施設。男鹿市役所若美庁舎2階にあります。解説員がわかりやすく説明してくれるので、ここで予習をしてからジオサイトに出かけましょう。

☎0185-46-4110
男鹿市角間崎字家ノ下452
開館時間:9時~16時
休館日:土曜日・日曜日・祝日
入館料:無料

大潟村干拓博物館

八郎潟のおい立ちと、大潟村の歴史、農業、環境などをテーマごとに展示。平成25年には、干拓地の地層の剥ぎ取り標本や、採集された貝類化石の展示が新たに加わりました。

☎0185-22-4113 大潟村字西5-2
開館時間:9時~16時30分
休館日:毎月第2・第4火曜日(10月~3月は毎週火曜日、祝日の場合はその翌日)
入館料:一般・大学生300円、小中学生・高校生100円

男鹿半島・大潟
ジオパークガイドの会
(男鹿半島・大潟ジオパーク推進協議会事務局)
☎0185-24-9104

7000万年前のジオストーリーをわかりやすく解説しながら、ジオサイトを案内します。ガイドの予約は1週間前までにお申し込みください。有料。

【男鹿半島・大潟ジオパークの観光情報】

なまはげ館
☎0185-22-5050
男鹿市北浦真山字水喰沢地内
実際に使われていた110体のなまはげ面が勢ぞろいするコーナーは圧巻。隣接している真山伝承館では、真山地区で行われている大潟日のなまはげ行事を間近で体験することができます。

開館時間:8時30分~17時
休館日:年中無休
入館料:一般540円、小中学生・高校生270円
※真山伝承館との共通入館料:一般864円、小中学生・高校生540円

男鹿総合観光案内所(男鹿市観光協会)
☎0185-35-5300
男鹿市船越字一向207-219
男鹿半島の入口で、15mの巨大なマフガがお出迎え。案内所内にあるジオビジターセンターでは、現地に行く前に情報収集ができるので要チェックです。

利用時間:9時~18時

産直センター湯の店
(道の駅・おおがた)
☎0185-22-4141
南秋田郡大潟村字西5-2
大潟村の新鮮な農産物や加工品を多数販売。干拓博物館に隣接しています。

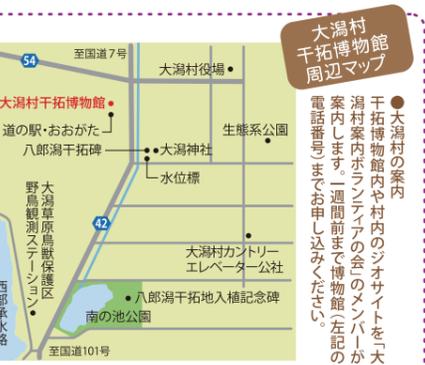
◇男鹿市産業建設部観光商工課
☎0185-24-9141 男鹿市船川港船川泉台66-1
◇大潟村総務企画課
☎0185-45-2111 南秋田郡大潟村中央1-1

ジオの景観を海から見よう



門前大滝(奥)と竜ヶ島
自然が造った石の橋、大棧橋

男鹿半島西海岸は人を寄せ付けない断崖絶壁が続くため、地層や地形などジオの景観は、船に乗って海上から観察するのが適しています。戸賀遊覧船乗り場から発着する中型漁船によるジオクルーズ(5月~10月)が運航しているほか、加茂漁港と門前漁港を発着場とする小型漁船でのクルーズもありますが、こちらは不定期となっています。その年により運航形態の変更や、波の状況などによる欠航があるため、あらかじめ確認してから出かけるのがよいでしょう。



大潟村干拓博物館 周辺マップ

●大潟村の案内
干拓博物館内や村内のジオサイトを「大潟村案内」(ジオパークの案内)のメンバーが案内します。1週間前までお申し込みください。電話番号までお申し込みください。

八峰白神 ジオパーク



板貝海岸の花こう岩

ジオサイト41 「ごま石」それはマグマ溜まりの中身

県境を越えて青森県に入ると、すぐ目の前に花こう岩の海岸が広がっています。さらに3kmほど北の入良川(いらかわ)付近では、地元住民が「ごま石」と呼んでいる花こう閃緑岩(せんりょくがん)が見られます。これらの岩石は、マグマが地下深いで冷えて固まったもので、できたのはおよそ9000万年前。長い間に大地が盛り上がり、波や風雨で削られたりして地表に現れました。



ジオサイト27 白神のスフィンクス

白神のスフィンクスとは、滝の間海岸にある人面岩のことで、地元では獅子岩と呼ばれていました。獅子と人間の顔との組み合わせは、人間の頭とライオンの胴体を持つスフィンクスと似ています。白神山地を見守るように荒海の中にそびえたつ姿は、八峰白神ジオパークの象徴として親しまれています。



新緑のニツ森登山



チゴキ崎



サンドイッチ岩



蜂の巣



すべり台



石神さんの椅子

ジオサイト35 岩脈オンパレード

町北部の岩館(いわだて)海岸のチゴキ崎付近では、変化に富んだジオの景観を見ることができます。通称サンドイッチ岩と呼ぶ岩の帯もそのひとつ。これは地下にできたマグマが、もともとあった地層の割れ目に沿って上がってきたもので、岩脈(がんみゃく)といいます。海岸を歩くと、まるで「オンパレード(勢ぞろい)」したような、大小さまざまな岩脈を発見できるでしょう。



ブラックサンドビーチ(中浜海岸)

ジオサイト24 ブラックサンドビーチ

八峰町を訪れて、中浜海岸から泊海岸にかけての砂浜が、真っ黒なのを不思議に思った方も多いでしょう。この黒い砂の正体は、かつて近くにあった発盛(はっせい)鉱業所の溶鉱炉で金属を取り出したあとに流れ出たカス=鉱滓(こうさい・カラミ)です。町に活気をもたらした発盛鉱業所の歴史は、中浜にある中央公園の案内板で知ることができます。

ジオサイト22 石の柱の集まり

椿漁港に海に突き出ている大きな岩のかたまりをよく見ると、ひとつひとつの石が五角形や六角形の石の柱となっています。およそ500万年前、海底火山の溶岩が冷えて固まった時にできたもので、このような割れ方をした石の柱の集まりを柱状節理(ちゅうじょうせつり)といいます。ユニークな名前が付けられた石柱の上に立って、はるか昔に海の中でおこった火山噴火を想像してみましょう。

世界自然遺産白神山地の西の端に位置している八峰町。特徴的な地質や地形を観察できるジオサイトが海岸に沿って点在し、それらをめぐれば、山地をつくっている地層と同じものを遺産地域に入ることなく見ることができます。原始的なブナの森を手軽に体感できるニツ森へのトレッキングもおすすめです。



浜田海岸から望むよく似た2つの峰

ジオサイト19 よく似た峰のかたち

海岸沿いに見られる階段状の地形を海岸段丘(だんきゅう)といいます。浜田海岸から北の海岸線を望むと、よく似た2つの峰が段々になって日本海に落ち込んでいるのがわかります。峰が平らになっているところ(段丘面、写真の矢印)をよく見ると、後方の峰が少し高いことに気づきます。このことは、町北部の白神山地ほど土地の盛り上がり大ききことを意味しています。



砂丘でできたボンポコ山

ジオサイト11 砂で埋もれた水田

公園と交流施設のある観光基地、ボンポコ山の一帯は砂丘でできています。砂丘の内部を調べると、砂あらしが3回おこったこと、2回の砂あらしのないおだやかな時期があったことがわかりました。このあたりに住んでいた昔の人びとは、砂あらしに苦しめられ、水田が埋もれるなどして大変な思いをしたことでしょう。

ジオサイト18 とめやま ブナ天然林・留山

藩政時代から保護されてきた里山の森で、留山の名は「水源を守るため、広葉樹の伐採を留めた山」に由来するといわれます。現在も貴重な自然を守るため、入山には八峰町白神ガイドの会のガイドの同行が必要となっています。



秋の留山



白瀑神社の神輿の滝浴び

ジオサイト17 しらたき 白瀑神社と滝

神輿(みこし)の滝浴びで知られる白瀑神社も、ジオと深い関わりを持っています。段丘地形の落差で滝ができたことによって信仰の対象となり、神社が創建されたからです。滝をつくっているのは海底の火山活動でできた「素波里(すばり)安山岩体」と呼ばれている安山岩で、八峰町の住民の多くはこの岩でできた大地の上で暮らしています。



ニツ森登山道のブナ林



紅葉の白神山地

ジオサイト8 世界自然遺産展望

ニツ森(ふたつもり)は、白神山地の西側にあたる標高1086mの山。山頂へは林道終点の登山口から徒歩で約50分。世界自然遺産の核心地域ではありませんが、広大な遺産地域を望めるほか、登山道でも中心部と同じ原始的なブナ林を見ることができます。



能代平野と段丘地形

ジオサイト1 たかぼうやま 高峰山と能代平野

高峰山は町南部の峰浜地区にそびえる標高367.8mの低山ですが、山頂近くの展望地からは、八峰白神ジオパークの特徴のひとつである段丘地形と、男鹿半島と能代平野の美しい風景を望むことができます。男鹿半島・大潟ジオパークを遠くに眺めながら、「ジオパーク県あきた」に心はずませる、そんな楽しいジオサイトとなっています。

八峰町白神ガイドの会 (白神ふれあい館) ☎0185-70-4211

海岸線のジオサイトめぐりのほか、ニツ森登山(ジオサイト9)、留山の散策(ジオサイト10)など、いずれも事前予約(一週間前まで)が必要です。所要時間、ツアーコースはご相談ください。有料。

【八峰白神ジオパークの観光情報】

白神ふれあい館
☎0185-77-3086
開館時間: 9時~17時
休館日: 水曜日
入館料: 無料
白神山地の玄関口にあるインフォメーションセンター。
白神ふれあい館
☎0185-70-4211
八峰町八森三十釜地内
「ぶなっこだん」の向いにあり、八峰町白神ガイドをあっせんしています。

あきた白神体験センター
☎0185-77-4455
八峰町八森字御所の台53-1
白神山地と日本海の自然との触れ合いを通して、さまざまな体験活動ができる宿泊研修施設。宿泊料金、体験メニューなどはお問い合わせください。

道の駅・はちもり お殿水
☎0185-78-2300
八峰町八森字乙の水72-4
白神山地を源流とする名水「お殿水」で、のどを潤すことができます。江戸時代に参勤交代の津軽藩主が休憩し、この清水を飲んだことからその名がつけられました。

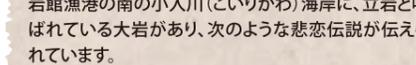
道の駅・みねはま ボンポコ101
☎0185-76-4649 (あらほの館)
八峰町峰浜沼田字ボンポコ谷地147
白神の塩とみそをミックスした地層ソフトクリームが話題。峰浜地区特産の石川そばを味わえる「道のレストランはっほう」、産直施設「あらほの館」を併設。

◇八峰町観光案内所(八峰町観光協会)
☎0185-76-4100
※道の駅・みねはま奥のパークセンター内にあります。
◇八峰町産業振興課観光係
☎0185-76-4605 八峰町峰浜目名濁子目長田118

小入川海岸の立岩伝説



立岩



小入川鉄橋

岩館漁港の南の小入川(こいらかわ)海岸に、立岩と呼ばれる大岩があり、次のような悲恋伝説が伝えられています。「昔、笛が上手な若者がいて笛吹きに夢中になるあまり、自分に思いをよせている乙女がいることに気づきませんでした。乙女は悲しみ、海に身を投じてしまいました。それに気付いた若者は、乙女を想い毎日笛を吹き続けているうちに、とうとう立岩になってしまいました」。小入川では、鉄道写真愛好者の間でよく知られているJR五能線の小入川鉄橋や、沖合から火の玉となって飛んできたと伝えられる「オカムイ岩」も見ることができます。不思議な伝説や鉄道の歴史などに思いをめぐらすのも、ジオパークの楽しみ方のひとつです。



ゆざわ ジオパーク



キャッチフレーズは「いにしへの 火山の恵み あつき雪 いかして築く 歴史と暮らし」。鉱山、地熱、温泉、湧水などの大地の恵みと、その上に築かれた人びとの営みに触れることができる、見どころいっぱいのジオパークです。



院内石採石場跡

ジオサイト1 院内

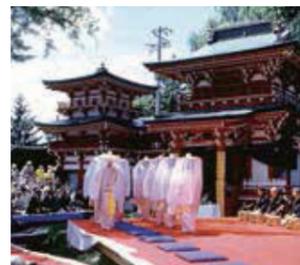
院内石は火山灰などが固まってできた凝灰岩(ぎょうかいがん)で、風化や熱に強く、古くから石材に利用されてきました。院内地区北側の山腹では、石を切り出した山肌がそのまま残る採石場跡を見学することができます。



院内銀山跡に残る御幸坑(みゆきこう)

ジオサイト2 院内銀山

ゆざわには多くの鉱山があり、地域の発展を支えました。中でも院内銀山は、江戸時代から明治にかけて日本一の銀産出量を誇った大鉱山でした。坑口が残る鉱山跡や鉱山資料を展示した院内銀山異人館に、かつての繁栄をしのぶことができます。



小町まつり

ジオサイト3 小野

小野地区には、平安時代の歌人、小野小町の伝承が色濃く残っています。7人の小町娘が小町堂に和歌を奉納する「小町まつり」は、ゆざわの初夏を彩る華やかなイベントです。



唐櫃石

ジオサイト4 秋ノ宮(役内)

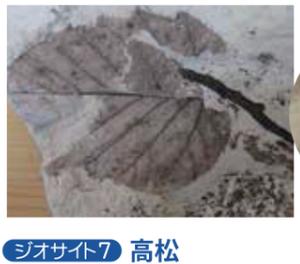
旧中山小学校跡地にある「唐櫃(からと)石」は、過去にこの地域で大規模な地すべりがおこり、その時に運ばれたばれたものといわれています。



川原の湧き

ジオサイト5 秋の宮温泉郷

秋の宮温泉郷を流れる役内川の川原からは、ところどころから温泉が湧き出て「川原のゆっこ」と呼ばれています。スコップで川底を掘り、自分だけの足湯を楽しむことができます。



ジオサイト7 高松

高松地区センター内に、植物化石や昆虫化石など200点以上を展示している「押切伸・三途川化石資料室」があります。元高校教師の押切さんが、ゆざわジオパークの代表的な地層である三途川層から採取した貴重なコレクションです。

押切伸・三途川化石資料室(高松地区センター)
☎0183-79-3370 湯沢市高松字上地6-2
開館時間:9時30分~16時30分、入館料:無料



木地山高原の苔沼(こけぬま)と兜山(かぶとやま)



ジオサイト6 高松(三途川・川原毛)

エリア内には、断崖絶壁の「三途川渓谷」、滝つぼが湯船となった天然の露天風呂「川原毛大湯滝」、草木の生えない地獄のような風景が広がる「川原毛地獄」、湯治場として名高い「泥湯温泉」、湖沼が点在する「木地山高原」などがあり、ゆざわジオパークを代表するジオサイトとなっています。



川原毛大湯滝



木地山高原の桁倉沼



川原毛地獄



「押切伸・三途川化石資料室」の植物化石(左)と昆虫化石

ジオサイト8 奥小安

おくおやす 奥小安

大湯温泉の南、国道398号の脇から林道を少し入ったところにあるトロッコ軌道跡の入口から、皆瀬川に沿って約1km行った川岸に、人面岩があります。凝灰岩が川の流れてけずられたもので、人の横顔に似ています。

奥小安の人面岩

小安峡の大噴湯



ジオサイト9 小安

おやす 小安

小安峡温泉街の下を流れる皆瀬川は、険しいV字谷となっています。谷底の遊歩道に下りると、地層の割れ目から高温の蒸気と熱湯がごう音とともに噴き出す大噴湯を、間近に体験することができます。



稲庭隧道(与惣右エ門堰)

ジオサイト11 稲川

皆瀬川と稲庭地区の川西集落をつなぐ稲庭隧道(いなにわすいどう)は、硬い安山岩をくり貫いてつくられた農業用の用水路です。江戸時代に、51年もの歳月をかけて隧道を完成させた人の名をとって与惣右エ門堰(よそうえもんせき)とも呼ばれています。



岩崎(末広町)の鹿嶋様

ジオサイト13 岩崎

鹿嶋様は、村の入り口に立って、村外から悪霊や疫病が入るのを防ぐと信じられてきました。岩崎の鹿嶋様は巨大なわら人形で、3町内(末広町、栄町、緑町)にそれぞれまつられています。



三関扇状地

ジオサイト15 三関・須川

水はけがよくミネラルを含む堆積物でできている三関扇状地は、日当たりのよい斜面、肥沃(ひよく)な土壌(どじょう)などの好条件のもと、品質の高いさくらんぼやセリなどの栽培が盛んに行われています。ジオの恵みが特産品を育てているのです。

皆瀬川の三途川層



ジオサイト10 皆瀬

皆瀬

皆瀬ダムや皆瀬川の両岸では、泥岩(でいがん)と砂岩が互い違いに重なり合った縞(しま)模様の地層が見られます。およそ700万年~500万年前、この周辺で巨大噴火がおこり、そのあとにできたカルデラ湖のなかで積み重なった地層(三途川層)といわれています。



大滝沢と小滝

ジオサイト12 駒形

黒沢川上流の大滝沢ダムと、さらにその上流の大滝沢一帯は、天然のブナ林が広がり、林野庁の「水源の森百選」に選定されています。大滝沢ダム上流の小滝までは散策道が通っていますが、その先はガイドの案内が必要です。



白山

ジオサイト14 山田

白山は松岡地区にある標高289mの信仰の山です。山頂に鎮座する白山神社の本尊は、平安時代の作と伝わるケヤキの女神像(県指定有形文化財)で、年に一度、例祭の時だけ開帳されます。



愛宕町の一里塚

ジオサイト16 湯沢

湯沢市街地には、湯の原と愛宕町に一里塚が残っています。どちらも樹齢約400年のケヤキの大木で、愛宕町のは塚の土盛りを覆い、尽くすようにして根を地面まで下ろし、古い歴史を持つ湯沢の町にふさわしいジオの景観をつくり出しています。

ジオガイドの申込み

ゆざわジオパークガイドの会
(湯沢市ジオパーク推進協議会事務局)
☎0183-55-8195 (ゴゴロー ハイコー)

多彩なキャラクターのガイドさんと一緒に、ジオパークで大地の鼓動とロマンに触れてみませんか。

【ゆざわジオパークの観光情報】



院内銀山異人館

☎0183-52-5143
湯沢市上院内小澤115
院内銀山の歴史を今に伝える郷土資料館で、1階は雄勝魅力発見の部屋、2階は歴史資料展示室となっています。JR奥羽本線院内駅に併設。

開館時間:9時~16時30分
休館日:毎週月曜日
入館料:大人320円、中学生以下210円



稲庭城

☎0183-43-2929
湯沢市稲庭町宇古館前平50
標高約350mの山頂に建つ天守閣を模した観光施設。中世に雄勝郡を治めていた小野寺氏のゆかりの品々が展示されています。

開館時間:9時30分~16時30分
休館日:毎週火曜日(祝日の場合はその翌日)、冬期間休業
入館料:大人430円、中学生以下210円



小安峡温泉総合案内所

☎0183-47-5820
湯沢市皆瀬字湯元5-1
小安峡温泉や周辺の観光施設などの情報を発信している観光案内所。敷地内には「足湯コーナー」もあります。

開館時間:9時~17時 休館日:冬期間は週2日休館日あり



道の駅・おがち 小町の郷

☎0183-52-5500
湯沢市小野字橋本90
秋田県の南の玄関口にあり、湯沢のジオフードである三関セリや稲庭うどん、地元の高校生が開発した乾燥さくらんぼ「ミツチエリー」などが土産として人気です。

◆市民プラザ(湯沢市観光協会)
☎0183-78-2300 湯沢市柳町一丁目1-13
◆湯沢市産業振興部まるごと売る課観光物産班
☎0183-73-2111(代表) 湯沢市佐竹町1-1

ジオの恵み、ゆざわジオパークの湧水

湯沢市は湧き水が豊富なところで、市内の各所に名前がついているだけでも30か所以上の湧水地があります。ここではそのうち代表的な5か所の湧水を紹介しましょう。



■カ水(ジオサイト16 湯沢)

湯沢市街地の中心部にある湯沢城址(じょうじ)のふもとにあり、古くから市民に親しまれてきた名水です。



■愛宕鉱泉(ジオサイト16 湯沢)

かつて地域住民が浴用に使っていたという鉱泉。強アルカリ性で炭酸水素イオンを多く含むため、美肌効果があるといわれています。



■くそわたの湧水(ジオサイト15 三関・須川)

山の斜面を勢いよく流れ落ちてくる水量豊富な湧水。一年を通じて枯れることなく、「健康長寿の水」と呼ばれています。



■目覚めの湧水(ジオサイト4 秋ノ宮(役内))

役内川にかかる川井橋のたもとにあります。古くから街道を往来する人びとの「力添えの水」として親しまれてきました。



■粟駒神水(ジオサイト8 奥小安)

宮城県境5km手前の国道398号脇に湧出しています。水温約7度と冷たく、ほのかな甘味があります。